

呼気NO検査について

臨床検査科 旭 真弓

ほほえみ医療メモ
当たり前を支える
縁の下の力持ち

情報システム管理室 大谷 勇人

当院では呼気NO検査を実施しています。

これからどんどん寒くなってきて風邪をひいた、咳が出る、口にちが経ち症状は良くなっているのに咳だけが治らない、そんなことがありますよね。もしかしてその咳、咳喘息かもしれません。咳喘息は気管支喘息の一歩手前の状態で、放つおくと気管支喘息に移行する可能性があります。

「咳がなかなか治らない」、「喘息かどうか調べたい」、そんな時に活躍するのが呼気NO検査です。この検査は、吐いた息に含まれる一酸化窒素(NO)濃度を測定し、気道のアレルギー反応を調べることができます。喘息を持っている人は、気道が炎症を起こしており、特異的に一酸化窒素(NO)の値が高くなる特徴があります。

◆検査方法

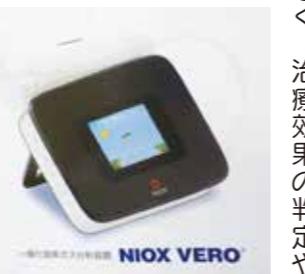
大きく息を吸い込んで、マウスピースに向かってゆっくり一定の速度で10秒程度息を吹き続けます。その後約1分で数値が出来ます。

◆注意点

- 測定前2時間は飲食を控えます。
- 喫煙の有無をチェックする(喫煙者は非喫煙者よりも数値が低く出る)。
- アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎の方(数値が高く出る)。
- 風邪をひいている場合は4週間以上測定しない。また、測定しても参考値とする。

◆結果の見方

- 15ppb以下…正常
- 22ppb以上…ほぼ確実に喘息
- 37ppb以上…ほぼ確実に喘息
- 症状が軽くとも、呼気NOの値が高ければ喘息や咳喘息の可能性があります。
- この検査は、喘息や咳喘息の早期発見に有効なだけでなく、治療効果の判定や将来のリスク予防にも役立つ検査です。気になる症状のある方は、一度検査を受けてみてはどうでしょうか。



ほほえみ医療メモ
当たり前を支える
縁の下の力持ち

病院と聞くと、白衣を着た医師や看護師の姿を思い浮かべる方が多いかもしれません。しかし、診療の現場を支えているのは、目に見える医療スタッフだけではありません。私たち「情報システム管理室」のスタッフもまた、患者さんが安心して診療を受けられるよう、日々病院の裏側で活動しています。

近年の医療は、電子カルテや検査機器、画像診断システムなど、膨大な情報のやり取りによって成り立っています。診察室で医師がすぐに患者さんの情報を確認できるのも、検査結果が瞬時に共有されるのも、すべてシステムが正しく動いているからです。もし一時的にシステムが止まってしまう、診療の流れが滞り、患者さんに不安を与えてしまうかもしれません。私たちの役割は、そうした「止まらない医療」を陰で支えないとあります。

とも、私たちの大切な使命です。情報システム管理室は、普段は表に出ることは少ないかもしれません。しかし、電気や水道のように「当たり前に使える」とが、実は医療の質を支える大きな力になっています。これからも私たちは、最新の技術や知識を取り入れながら、見えないとこで確かな安心を届け続けていきます。

第2回 十全おしごとたいけんかい開催しました!



作業療法士 河端一幸

令和7年11月8日(土)

十全総合病院にて、新居浜市内の小学生を対象とした仕事体験会が開催されました。第2

回となつた本イベントは、小さいころから医療現場を知つてもうい、将来の選択肢の一つになるきっかけとなつて欲しいと希望を込めて開催されました。

今回は、看護師による「手術室体験」、作業療法士による「動物チャームづくり」、管理栄養士による「野菜スタンプアート」、薬剤師による「調剤体験」、臨床検査技師による「超音波・顕微鏡体験」の5ブースを開設しました。参加者は、それぞれの職種について質問したり、活動を楽しんだりと、真剣な眼差しや笑顔がいっぱいのイベントとなりました。

新居浜市教育委員会の後援により、市内各小学校にパンフレットを配布したこと、参加人数は小学生130名、保護者未就学児を合わせると220名を超えて大盛況となりました。参加者は、それぞの職種について質問したり、活動を楽しんだりと、真剣な眼差しや笑顔がいっぱいのイベントとなりました。

今後も患者様との関わりを大切にし、予防や治療の大切さを多くの方に知つていただけるよう、支援を続けていきたいと思います。



第30回 十全公開糖尿病教室開催

管理栄養士 真鍋侑記

令和7年11月26日(水)

十全公開糖尿病教室を開催しました。

今年のテーマは「糖尿病のことを見直しく知ろう」として、各職種が相談コーナーを設けたブース形式で行いました。看護師は「血圧測定・生活相談」、理学療法士は「椅子を使用した立ち上がりや歩行時間を測定する体力測定」、管理栄養士は「ベジチェックの結果を基に栄養相談」、薬剤師は「インスリンの注射体験やお薬相談」、臨床検査技師は「血糖測定」を担当しました。

相談コーナーでは熱心に相談され、理解を深めていただくことができました。また今回はスタンプラリーを行い、参加者の皆様はサンプルや粗品を受け取つて喜ばれたり、体力測定では一生懸命身体を動かし、笑顔が多く見られた教室を開催することができました。参加人数は約60人でした。

今後も患者様との関わりを大切にし、予防や治療の大切さを多くの方に知つていただけるよう、支援を続けていきたいと思います。

対外活動

日時 令和7年12月12日(金) 14時00分～15時00分
場所 道面自治会館

講師 薬剤師 佐伯千春
題目 高齢者と薬について

薬の効果や副作用についての話にあわせ、高齢者が使う薬の注意点等について詳しく説明がありました。

講演は終始、和やかな雰囲気で、参加者の9名は、薬の保存方法や、自身が服用している薬について、普段気になっていることをしっかりと質問することができ、有意義な時間となりました。